

(素案)

桑折町総合計画

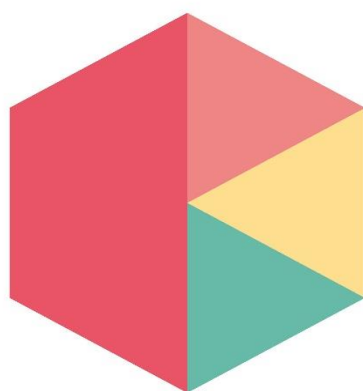
2022年－2031年

(令和4年)

(令和13年)

献上桃の郷こおり 躍動プラン

幸せを実感できる 元気なまち こおり



献上桃の郷®
KOORI

～To the Bright Future～



町民憲章

- 一、歴史と伝統を尊び、かおり高い
文化の町をつくりましょう
- 一、恵まれた自然を愛し、環境を整え
緑の町をつくりましょう
- 一、心身をきたえ、健康で
明るい町をつくりましょう
- 一、勤労にはげみ、活力ある
豊かな町をつくりましょう
- 一、きまりを守り、助け合う心を育て
住みよい町をつくりましょう

昭和60年9月制定



花 <モモ>

桑折の春を花霞で美しく
彩ります。実はくだもの
の町を代表する逸品



鳥 <カッコウ>

美しさの中にどこか愛嬌
のある鳴き声は、夏の訪
れを告げる風物詩です



木 <アカマツ・カヤ>

桑折の大地が育んだ緑。
どっしりと根を下ろし、町
の四季を見守っています

SAMPLE



桑折町長 高橋 宣博

「コロナ禍を
着実に歩む」
『住み続けたいまち
住みたいまち 桑折』
の実現を目指して

町民の皆様には、日頃から、町政運営に対しご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
先月11日、東日本大震災・原発事故災害から10年を迎えました。

振り返ってみますと、あの日を境に、本町を取り巻く環境は激変し、多くの障害・障壁が我々町民の前に立ちはだかることになりました。私たちは、「町土の除染なくして復興なし」「町民の健康なくして復興なし」「町民の安心なくして復興なし」を三大スローガンに掲げ、未曾有の大災害からの復旧・復興に町民一丸となって力強く取り組み、その結果、今日の「こおり新時代」を迎えることができました。

しかしながら、現在、私たちは、10年前同様、過去に経験したことのない「新型コロナウイルス感染症」という「見えない脅威」との戦いを再び強いられております。目に見えないウイルスが世界中で猛威を振るうという未曾有の事態が一年余り続いており、さらには、新たに変異種が確認されるなど、未だに事態収束の見通しが立たない閉塞した状況下に置かれております。町といたしましては、引き続き、感染拡大防止はもとより、地域経済活性化や住民生活支援などの施策をバランスよく展開するとともに、切り札となるワクチンが届く4月以降、高齢者施設入所者・従事者を皮切りに接種を開始し、全町民の速やかかつ安全なワクチン接種完了に向けて、全力で取り組んでまいります。

さて、新しく迎えた令和3年度は、東日本大震災や原発事故災害からの復興関連事業を整理するとともに、コロナ禍を踏まえ、感染拡大防止と経済再生の両立を図りながら、地域社会・経済の再構築に向けた取組みをより一層強化しなければならない年であり、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、デジタル社会、脱炭素社会の進展など、社会情勢の変化に真正面から向き合いながら、引き続き、「住み続けたいまち 住みたいまち 桑折」の実現を目指し、町民の皆様とともに「桑折らしさ」を大切に「桑折ならではの」施策を展開していかなくてはならない年でもあると考えております。

新年度当初予算については、「平時」とは違う前提で、コロナ感染症対策を推進しながら、令和4年度からの「新総合計画」に沿ったまちづくりへ円滑に移行するため、「健康と福祉の町」「危機管理に備える町」など6つの重点項目に優先配分し、地域経済活性化、教育の充実、農

SAMPLE

業振興、健康づくりなどに力点を置いた編成となっております。私は、この当初予算を丑年にちなみ「コロナ禍を着実に歩む予算」と名付け、コロナ禍を克服した輝かしい未来に向かって着実に一步を踏み出す年にしてまいりたいと考えております。

それでは、新年度事業のうち総合計画の重点プロジェクト関連事業等について説明いたします。

第1は「『献上桃の郷』展開プロジェクト」であります。

「モモせん孔細菌病対策」については、防除費助成の拡充や防風林設置費用の助成を行うとともに、「就農者支援事業」については、新たな農業後継者に対して激励金を交付するなど、新規就農者、農業後継者の確保に努めてまいります。

「献上桃の郷」PR事業については、楽天ゴールデンイーグルスとのオフィシャルスポンサー契約を継続し、戦略的なシティプロモーションを展開するなど、本町の魅力を内外へ発信し、交流人口の拡大、関係人口の創出に取り組んでまいります。

第2は「21世紀の追分推進プロジェクト」であります。

伊達桑折IC周辺については、ゴールデンウィーク前後に相馬福島道路が全線開通され、伊達市においても、大型商業施設の整備計画が動き出すなど、本町を含めた周辺地域の地理的優位性がますます顕著となっていることから、「新産業団地基本構想（適地選定）策定業務」の成果等を踏まえた土地利用の推進と企業誘致の活動に努めてまいります。

第3は「歴史まちづくり推進プロジェクト」であります。

「歴史的風致維持向上計画」については、10月に「第28回全国山城サミット桑折大会」を開催し、「伊達氏発祥の地」として本町を全国に広くPRするとともに、全国からの来訪者に本町の歴史を体感してもらえよう、旧伊達郡役所の早期修復や門扉再現、万正寺の大力弘扬周辺整備などの事業を進めてまいります。

第4は「町民のための庁舎整備プロジェクト」であります。

「こおり新時代の象徴」である役場新庁舎については、2月の大型地震で早速その機能を十分に発揮したほか、多くの町民に訪れていただいております。まさに「町民のための役場」であることを実感しております。また、7月には、庁舎前広場をメイン会場に「コロナに打ち勝つ！桑折エールプロジェクト第3弾」として、経済団体や文化団体等と連携し、町民参加型のイベントを開催する予定であり、引き続き、町民に親しみ、愛される役場づくりに努めてまいります。

その他、長年の懸案だった「福島蚕糸跡地」の残り1.9haの活用については、商業施設を核とした「交流」「子育て」などの機能を備えた複合施設の整備を官民連携で進めることにいたしました。早急に事業者を募り、町民の利便性を高めるためのコンパクトなまちづくりを目指してまいります。

結びに、私は、今後とも、町民の皆さまの「命」と「暮らし」を守るため、その先頭に立って、「コロナに打ち勝つ」を合言葉に、各種施策に力強く取り組んでまいり所存であります。そして、一万全町民が、桑折人の気概を持ち、心ひとつに真摯に向き合うことにより、コロナ禍など様々な困難を克服し、輝かしい未来に向かって歩みを進めることができるものと信じておりますので、皆様におかれましては、引き続き、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



目 次

contents

第1編 序論	7
第1章 計画の策定に当たっての基本的な考え方	
第1 策定の趣旨（計画の位置づけ、策定の背景）	8
第2 計画の性格（名称、役割、総合戦略との連動性）	8
第2章 計画の構成と策定体制	10
第1 計画の構成	10
第2 計画の期間	10
第3 策定体制	11
第3章 町民アンケートの状況	13
第1 町民意向	13
第2 満足度、重要度、町民ニーズ（今後の取組みについての重要度）	13
第3 10年後の理想的な町の在り方	15
第4 移住・定住、交流促進等について	15
第5 結婚・子育て支援について	16
第6 就業・仕事について	16
第4章 人口の将来展望と将来像実現のための方策	17
第5章 財政状況	20
第6章 時代の潮流	22
第1 町を取り巻く環境	22
第2編 基本構想	29
第1章 町の目指す将来像・あるべき姿	30
第2章 基本方針	31
第1 「活力と賑わいに満ちたまちづくり」	31
第2 「暮らしと自然が調和した豊かさを実感できるまちづくり」	31
第3 「健康長寿で元気なまちづくり」	31
第4 「交流で絆を育むまちづくり」	31
第5 「子どもを大切にするまちづくり」	32
第6 「危機管理に備えた安全安心のまちづくり」	32
第7 計画の実現に向けて	32

目 次

contents

第3編 重点プロジェクト		34
第1章 施策の体系図		36
第2章 重点プロジェクト		40
第4編 分野別基本計画（前期基本計画） （第2期桑折町まち・ひと・しごと創生総合戦略）		50
第1章 「活力と賑わいに満ちたまちづくり」		54
第2章 「暮らしと自然が調和した豊かさを実感できるまちづくり」		66
第3章 「健康長寿で元気なまちづくり」		84
第4章 「交流で絆を育むまちづくり」		98
第5章 「子どもを大切にするまちづくり」		106
第6章 「危機管理に備えた安全安心のまちづくり」		114
第5編 計画の推進に向けて ～町民との共創と効率的な行財政運営～		123
第1章 計画の実現に向けた方策		124
第2章 計画の実効性確保		140
第6編 グランドデザイン（まちづくり構想図）		142
資料編		144
第1 前計画における主な取組み経過		146
第2 数字で見る桑折町の姿		192
第3 若者の声		○
第4 町民意見募集結果の概要		○
第5 総合計画策定の主な経過		212
第6 桑折町総合計画審議会条例と審議会委員		215
第7 桑折町総合計画の策定について（諮問・答申）		217